

Ⅲ 研究の内容

1 「自然」とは

本研究では、「自然」を『身の回りの様々な動植物や自然物，自然事象』と捉え、研究を進める。

身近な自然環境の減少が社会問題として挙げられている今日，子どもたちに大切にしたい「自然」とのかかわりについては，幼稚園教育要領でも多く触れられている。特に領域「環境」においては，ねらい，内容の中で「自然」に関する記述が多い。幼児期が，身近な環境に興味をもち，それらに親しみをもって自らかかわるようになる時期であることを踏まえ，子どもたちが身近に「自然」とかかわる機会をつくること，子どもたちの「自然」との出会いを見逃さないようにすることが大切であると考ええる。

2 研究の実際

本園では，研究保育・保育研究，事例研究等を通して，研究を進めてきた。本年度は，子どもたちがかかわっている「他」の中の「自然」に視点を当て，保育者の援助の在り方，環境構成の工夫について触れながら，研究テーマに迫ることとする。

(1) 実態調査から（平成21年6月26日～7月3日実施）

子どもたちがかかわる「自然」に注目して研究を進めるにあたり，子どもたちの現在の「自然」とのかかわりの実態，保護者の「自然」の大切さについての認識を捉えるために実態調査を行った。また，アンケートを回答する中で，保護者が普段あまり意識していなかった「自然」とのかかわりについて，改めて意識したり，振り返ったりすることができるのではないかと考えた。

1学期に実施した実態調査をまとめてみると，全保護者が「自然」とのかかわりを大切だと思っており，「自然」から教わることは非常に多く，「自然」とのかかわりを大切にしたいと考えていることが分かった。しかしながら，園外では身近な自然がないこと，保護者の小さい頃と比べると遊べる自然環境がなくなっていることから，子どもたちの「自然」とかかわる体験は十分だと思わないと感じているようだ。このような現状の中ではあるが，「自然」とのかかわりを大切にしようと，意識して自然と触れ合える場所へ出掛け，野菜や果物を収穫したり，虫探しに出掛けたりしている家庭が多いことも分かった。

「自然」とのかかわりには，動物（生き物）とのかかわりも含まれることから，「お子さんが捕まえた生き物を持ち帰りたいといったときどのように対処をしますか？」という質問を試みた。すると，ほとんどの家庭が，子どもたちの持ち帰りたいと言う気持ちを受け止め，生き物を通して生き物の扱い方や生命の大切さについて一緒に考える機会をもつようにしていると回答していた。また，「自然」に関する子どもたちの疑問に，できるだけ正しく答えるように努め，一緒に調べようとしていることも分かった。

以上のように、子どもたちの「自然」とのかかわりを大切にしたいという保護者の強い思いがアンケート調査よりうかがえた。また、幼稚園で捕まえた生き物を持ち帰ったことが、その後、家庭で育ててみる、育て方を調べてみるというふうに、家庭と幼稚園との生活の連続性も実感することができた。

これらのことから、幼稚園として、子どもたちがどのような「自然」に興味をもち、どのようなかかわりを楽しんでいるのか、そこからどのようなことを感じ取っているのか（学んでいるのか）について、保護者へ発信していくことを大切にしていかなければならないと考える。

(2) 研究保育・保育研究から

研究を進めるにあたり、研究保育・保育研究を通して全職員で研究内容の理解を深めたり、研究の方向性を確認したりしてきた。大学の先生を講師として招き、研究保育、その後の保育研究の中で研究を深めていった。

研究保育は、○ ビデオ係 ○ 保育者・子どもの言葉の記録係 を設け、保育後の子どもの姿の分析や保育者の援助の在り方の振り返り等に活用するようにした。

次のページからは、1学期と2学期の研究保育で見られた子どもの姿と、保育研究の中で話題になった保育者の援助の在り方や理論面での成果と課題、3クラスの研究保育・保育研究を実施して見られた「自然」とのかかわりの連続性をまとめたものである。

<研究保育・保育研究資料の見方>

[子どもの実態]

[保育のねらい]

[内容]

令和20年 8月 2日 (月) 天久:雨

<p>【子どもの実態】 年長組に遊ばせたことに関心を感じ、年中組以上に声を掛けたり、身体を動かして遊んだりするなど、積極的な姿が見られる。またたびと一緒に遊ぶことやイメージを共有することに関心をもちながら遊んでいる。</p> <p>【あそび】 ○ 自然の自然と関わりをもち、遊び場が広がって遊ぶ。 ○ たびと一緒に遊ぼうと申し出る。イメージを共有することに関心をもちながら遊ぶ。</p>	<p>【あそび】 ○ 自然の自然と関わりをもち、遊び場が広がって遊ぶ。 ○ たびと一緒に遊ぼうと申し出る。イメージを共有することに関心をもちながら遊ぶ。</p>	<p>【内容】 ○ たびと一緒に遊ぼうと申し出る。イメージを共有することに関心をもちながら遊ぶ。 ○ 自然の自然と関わりをもち、遊び場が広がって遊ぶ。 ○ たびと一緒に遊ぼうと申し出る。イメージを共有することに関心をもちながら遊ぶ。</p>
---	---	---

【子どもの生活】

☆子どもの生活
※保育者の援助・環境構成の工夫
(◇人とのかかわり、□ものとのかかわり、△自然とのかかわりの視点から)

○ : かかわりによって育まれる体験

【環境構成図】
保育のねらいに沿ったプレイルーム、保育室、園庭の環境構成図

【遊びの姿】
保育の中で見られた子どもの姿と、「人」「もの」「自然」とのかかわりの視点からの保育者の援助・環境構成の工夫をまとめたもの

○ : かかわりによって育まれる体験

【遊びの価値とつながり】
この時期の子どもの実態に合った遊びのよさと、今後、子どもたちのどのような姿につながっていくかをまとめたもの

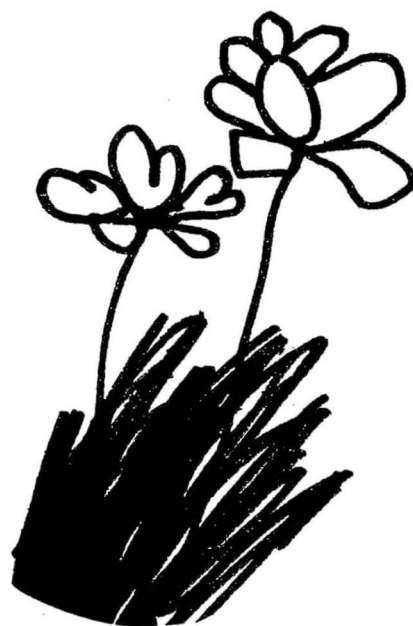
【成果と課題】
保育者の援助の在り方や理論面での成果と課題

3クラス連続で研究保育・保育研究を実施し、子どもたちが「他」とかかわる姿から、自分らしさを発揮できるための保育者の援助の在り方、環境構成の工夫・改善について研修を深めた。研究保育の中での成果、課題について、保育研究の中で話題になったことも踏まえながらまとめてみた。その中でも「自然」とのかかわり方に注目してみると、1学期は生き物とかかわる子どもたちの姿が、2学期には園庭で秋の深まりを感じながら遊びを楽しんだり、自然物と思いきりかかわったりする子どもたちの姿が見られた。

そこで、保育研究では次のようなことを話題にした。

- 1学期：子どもたちが生き物とかかわるときに保育者としてどのようなことに心掛けたらよいのかについて
- 2学期：深まる秋の自然を感じながら遊ぶ子どもたちの姿の発達の連続性について

保育研究を通して保育を振り返る中で今後の課題となったことを、実際の子どもたちの姿、保育者の援助と合わせながら表にまとめてみた。





【子どもの実態】
 幼稚園生活の仕方が分かり、所持品の始末や後片付けも自分でやろうとする姿も見られるようになってきた。安心して遊べる場も増え、「～したい」「～してみたい」という思いを膨らませながら、ぶらんこや自然との触れ合いなどしたい遊びを見付け、様々な場や活動に興味・関心を広げている。

【ねらい】
 ○ 先生や友だちと触れ合いながら、自分の好きな遊びを楽しむ。
 ○ 梅雨という時期を知り、天候に合わせた遊び方をする。
 ○ 生活の仕方が分かり、生活に必要なことを先生に励まされながら、自分でもしようとする。

【内容】
 ○ 同じ遊びをしている友だちに気付き、生き物探しや新聞プール、音楽に合わせて体を動かす遊びなどを一緒にする。
 ○ 梅雨時期ならではの自然とのかかわりを楽しんだり、室内遊びを楽しんだりする。
 ○ したいことを言葉で先生に言ったり、感じたことを音や声、動きで表そうとしたりする。
 ○ 所持品の始末や手洗い・うがいなど自分でしようとする。


☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫(◇ 人とのかかわり □ ものとのかかわり △ 自然とのかかわり) かかわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

☆ ソフト積み木や新聞紙などを使って、自分がつくりたいものをつくっていた。
 ☆ つくったものを使って、友だちや先生と一緒に遊んでいた。

想像力 試行錯誤 満足感

□ 「～したい」という思いを実現するために必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
 ◇ 何がしたいのか、何をつくりたいのかを丁寧に受け止めるようにした。




【絵本を見る】

☆ 自分が好きな本を選び、保育者に読んでもらったり、自分で絵や写真を見たりしていた。

想像力 人とかかわる楽しさ 感動体験

□ 子どもたちが興味のある本や図鑑を用意しておき、いつでも見ることができるようになっていた。




【ごっこ遊びをする】

☆ アニメの登場人物や家族など好きな役になりきって遊んでいた。
 ☆ 自分の思っていることを言葉や動きで表そうとしていた。

想像力 自分を出す 満足感 新聞温泉ですよ!

□ 遊びに必要なものを使いやすい場所に用意しておいた。
 ◇ 一人一人のイメージを大切にしながら保育者も仲間に入り、遊びを盛り上げるようにした。


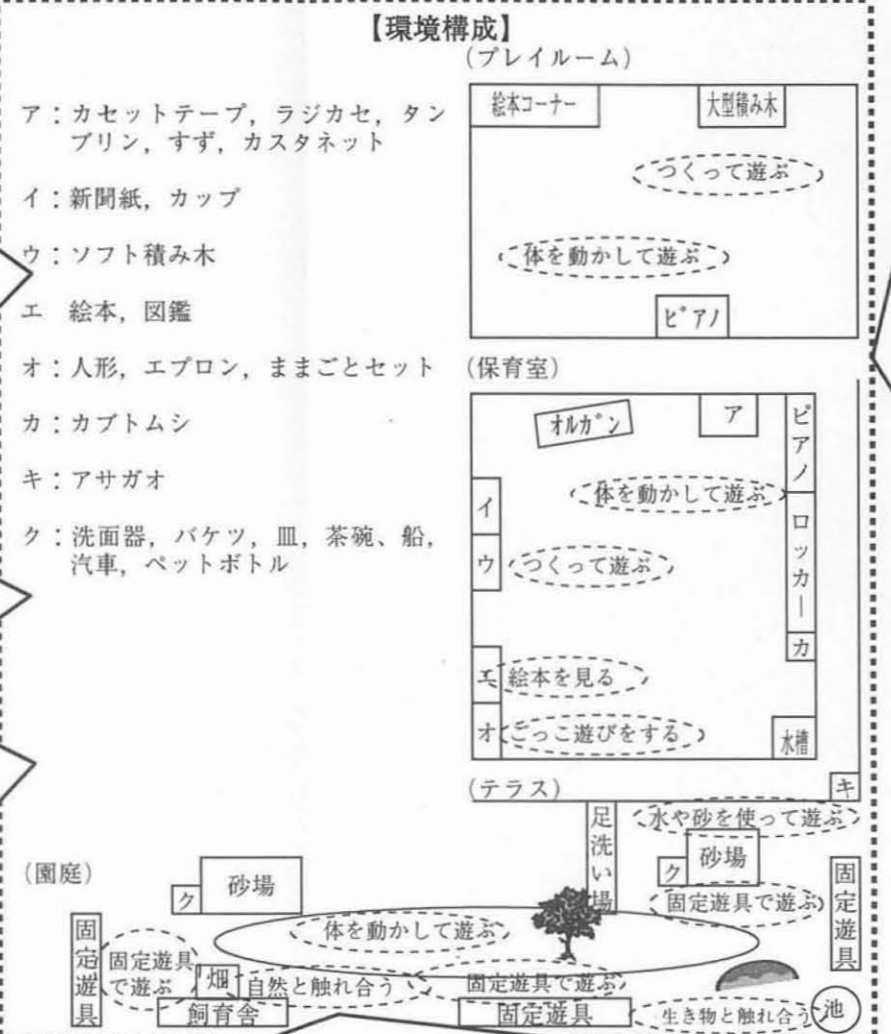


【体を動かして遊ぶ】

☆ ぶらんこやグロブジャンクル、雲梯などの固定遊具に乗って遊んでいた。
 ☆ 音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、体を動かしたりしていた。

体を動かす楽しさ

□ 十分に体を動かして遊ぶことができるように場を確保し、ラジカセやカセットテープ、楽器などを用意した。

【自然と触れ合う】

☆ アサガオの様子を見たり、水を掛けたりしていた。
 ☆ ダンゴムシやミミズを見たり、触れたりしていた。
 ☆ ウサギやニワトリなどを見たり、えさをあげたりしていた。
 ☆ 草花や木の実で遊んでいた。
 ☆ 飼っている金魚やカブトムシの様子を見ていた。
 ☆ 「動いた!」「こんなに大きくなって!」「(ミミズ)めめは?」などと、感じたことや不思議に思ったことを体や言葉で表現する姿が見られた。

自然への親しみ 感動体験 気付く 想像力 試行錯誤
自信 満足感 人とかかわる楽しさ

(アサガオの葉が)こんなに大きくなって!



(ダンゴムシが)丸くなった! (ミミズの)めめは?

△ 保育者も一緒にアサガオの様子を見たり、水を掛けたりして感動を共有するよう努めた。
 △ ダンゴムシやミミズを探したり、捕まえたり、触れたりしたことを共に喜び、親しみをもって接することができるように言葉掛けの工夫に努めた。

【成果】

○ 担任・副担任とでかかわる遊びを分担し、「～したい」という一人一人の思いに寄り添いながら保育に当たるよう努めることができた。
 ○ 様々な「他」とのかかわりが生まれるよう、新聞紙温泉などの場の工夫や「他」とかかわるよさに気付くような言葉掛け(「あいさつすると気持ちがいいね」「○○くんがミミズを捕まえたみたいだよ」「ぶらんこって気持ちがいいねえ」等)に努めることができた。
 ○ 子どもたちの気付きに共感しながら、年少児なりの「待つ」ことを意識した保育に努めたところ、想像を膨らませながら友だちとやりとりする場面が多く見られた。


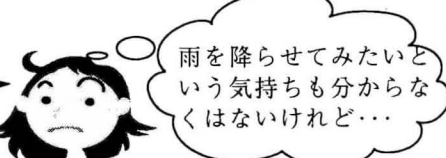
【課題】

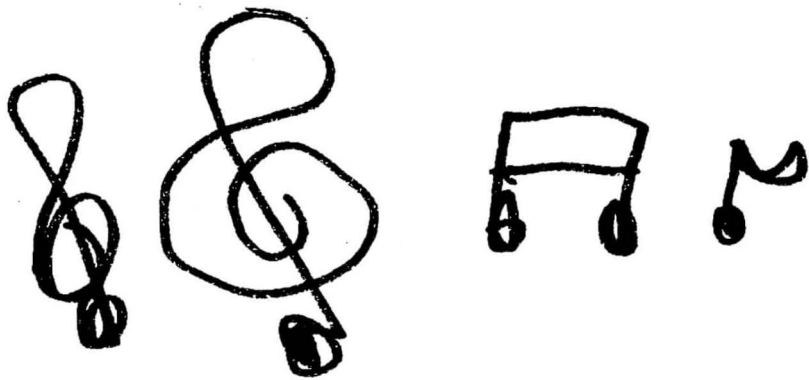
● 「自然と触れ合う遊び」の中で、言葉掛けに迷う場面があった。子どもたちの発達の特徴を踏まえ、一人一人に応じた保育が展開できるように理論研究、実践研究を深めていきたい。
 ● 「他」とかかわる中で、子どもたちの遊び方、感動は様々で、一人一人の感動を友だちと共有できるような場や言葉掛けの仕方など工夫していきたい。

【遊びの価値とつながり】

この時期は、自然と触れ合う遊びを通して、自然に親しみをもって接することができるようにしたい。うさぎにえさをあげたり、ミミズやダンゴムシなどを探したり、捕まえたり、触れたりする経験は、生きていくものへの温かな感情が芽生え、生命を大切にしようとする心を育んでいく。アサガオの様子を見たり、世話をしたりする経験も同じく、いたわったり、大切にしようとする気持ちを育んでいく。また、体を動かす遊びを通して、満足感や達成感を味わえるようにもしたい。ぶらんこやグロブジャンクルなどは、場を共有する友だちと一緒に楽しむためにも順番を待つなど自分の気持ちに折り合いを付けることを経験できる遊具でもある。こうした遊びを繰り返し経験していくことは、生き物を大切にしていこうとする姿や友だちとかかわりながら遊びを楽しむ姿へとつながっていくものである。

※ 年少児(はな組)保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と実際の保育者の援助	今後の保育者の援助
<p>○ 先生と一緒にダンゴムシ、ミミズ探しに行く。 A「先生、ダンゴムシ探しに行こう」 B「わたしも行く！」 C「はく、ミミズがいい！」 保「いいよ。たくさん見付かるといいなあ」</p>	<p>----- ダンゴムシがほしい、ミミズを見付けたい、捕まえたい -----</p> <p>○ 子どもの思いを受け止め、期待が高まるような言葉を掛けをした。</p> <p>「たくさん、見付かるといいなあ」</p>	
<p>○ 保育者と一緒にダンゴムシ、ミミズを探す。 C「捕まえた！」 保「やったあ。Cくんが捕まえたよ。ダンゴムシって、何を食べるんだっけ？」 A「葉っぱ！土も入れるんだよ」 保「Cくん、(ミミズ)いたよ～」 C「うわあ、長い！」 D「つぶしてやる～」 保「え～!!」 D「だって、怖いんだもん」</p>	<p>○ 捕まえた喜びに共感し、友だちとのつながりが生まれたり、これまでの経験からダンゴムシと一緒に何を入れたらいいか気付けるような言葉掛けをした。</p> <p>「やったあ、Cくんが捕まえたよ」 「ダンゴムシって何を食べるんだっけ？」</p> <p></p> <p></p>	<p>○ 友だちとのつながりが感じられるように一人一人の言葉にもっと耳を傾け、他の子どもへの刺激になるような言葉掛けをする。</p> <p>「Cくん、Aちゃんが葉っぱと土を入れるんだよって教えてくれたよ」</p> <p>○ 「つぶしてやる～」の言葉の背景には、「怖い」という理由がある。子どものそうした気持ちを受け止め、今回のように「え～!!」と保育者の気持ちを言葉と態度で表すことも大切にしていこう。</p>
<p>○ ミミズに水を掛ける。 C「雨だ～」 D「雨、雨」 保「え～、ミミズさんに掛けちゃったの？ほら、ミミズさん、弱くなってしまったよ」 C「動いた～」 D「動いた！」 保「よかったね。ミミズさんには水じゃなくて、土がいいよ」</p>	<p>○ ミミズの様子に気付くような言葉を掛けたり、子どもたちとミミズが動いたことを喜んだりした。</p> <p>「え～、ミミズさんに掛けちゃったの？ほら、ミミズさん、弱くなってしまったよ」 「よかったね。ミミズさんには水じゃなくて、土がいいよ」</p>	<p>○ こうした経験も含めて、生き物と繰り返しかかわる姿を大切にしていこう。保育者が胸を痛めつつ、その気持ちを子どもたちに伝えていこうとする。</p>
<p>○ ミミズのからだについて思ったことを話す。 C「先生、ミミズ、めめは？」 保「う～ん、どこにあるのかな」 D「ないよ！」 C「(動く先を指して)おめめ、あるよ！」 保「Cくん、『痛い』って言ってるかもよ。優しく触ってね」 B「(ミミズのおしりから)何か出てきた」 A「たまごだよ」 E「たまごかな」</p> <p>○ Cは、ミミズを手の平にのせる。</p>	<p>○ ミミズのからだについて、思ったことを言葉にする姿を共感的に受け止め、一緒に考えたり、ミミズも生きてることを感じたりするような言葉掛けに努めたりした。</p> <p>「う～ん、どこにあるのかな」 「『痛い』って言ってるかもよ。優しく触ってね」</p>	<p>○ 思いついたことをみんなの前で話す楽しさを味わえるような雰囲気づくりをしていくことも大切にしていこう。</p>



【子どもの実態】

進級児, 新入園児共に園生活に慣れ, 互いに名前を呼び合いながら好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいる。園での生活を十分楽しみ様々なものとかかわりながら過ごすようになってきている。

【ねらい】

- 好きな友だちと場所や遊びを共有しながら, 一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 自分のイメージするものをつくり, なりきったりして遊ぶ。
- 梅雨期の園庭の草花や生き物に興味をもってかかわろうとする。

【内容】

- 自分の思いを友だちと伝え合いながら, 一緒に遊ぶ。
- 友だちと一緒に自分のなりたいものになりきってごっこ遊びを楽しむ。
- 園庭の草花や身近な生き物に興味をもってかかわろうとする。

☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫 (◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) ○ かわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

- ☆ 空き箱やロールペーパーの芯, ペットボトルなどを組み合わせて, 自分のイメージしたものをつくりだした。
- ☆ 折り紙の本を見たり, 保育者と一緒に折り紙を折っていた。
- ☆ 色画用紙や広告紙を使って, ごっこ遊びに必要なチケットなどをつくりだした。

創造力 想像力 試行錯誤 人とかかわる楽しさ 満足感

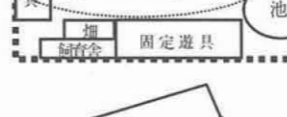
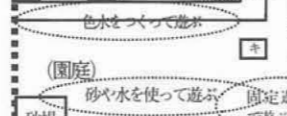
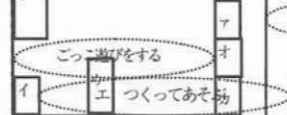
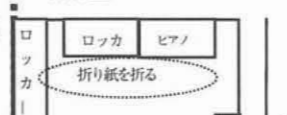
- 子どもたちが自分たちでつくろうとしている姿や工夫したところを認め, 出来上がった喜びに共感し, つくる楽しさを味わえるようにした。
- ◇ 子ども一人一人が工夫してつくったところなどを認めながら, 友だち同士のかかわりが深まるように, お互いの工夫を知らせる言葉掛けをした。
- 製作に必要な材料, 用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。



【環境構成】 (プレイルーム)



(保育室)



- ア 金魚の水槽,
- イ ままごとの道具 (スカート, エプロン, むいぐるみなど)
- ウ カブトムシの幼虫
- エ セロハンテープ, ペン, ラジカセ, カセットテープ, ブロック
- オ カラービニール, ガムテープ, ストロー, 新聞紙, 花紙, ひらテープ, 画用紙など
- カ 空き箱, 牛乳パック, ペットボトル, カップ, 紙コップなど
- キ ホウセンカ

【ごっこ遊びをする】

- ☆ 自分でつくったものを使ってヒーローになりきって遊んでいた。
- ☆ 友だちとそれぞれの役割を話し合っ, 家族ごっこを楽しんでいた。
- ☆ 自分たちのイメージするものになりきるために工夫しながら遊んでいた。
- ☆ 自分たちでつくったものを使ってディズニーランドごっこや家族ごっこをしていた。

想像力 自分を出す 伝え合い 人とかかわる楽しさ

- ◇ 友だちと一緒にヒーローなどの役になりきって遊ぶ姿を認めながら, 見守るようにした。
- ◇ 子どもたち同士でアイデアを出し合う姿を見守りながら, 気持ちのぶつかり合いが見られたときは, 両者から話を聞き, お互いの気持ちや思いを汲み取ってあげるようにした。
- 子どもたちが遊びに必要な道具はあらかじめ準備しておき, 必要に応じて補充をしたり, 必要なものを一緒に準備したりするようにした。

ディズニーランドのチケットをつくりましょ!



このチケットがあればシンデレラになれるのよ〜。

私は白雪姫になりた〜い。

みんな手伝って!

【積み木やブロックで遊ぶ】

- ☆ 近くにいる友だちと積み木やブロックを組み合わせて, 自分のイメージしたものや友だちのイメージしたものを一緒につくって遊んでいた。
- ☆ 年長児に仲間に入れてもらって, 一緒に家や城をつくり, ごっこ遊びをしたりしていた。

創造力 想像力 試行錯誤 伝え合い 感動体験

- ◇ 途中から参加したい子がうまく仲間に入っていけるように様子を見ながら言葉を掛けたり, 限られた数の積み木やブロックをみんなで使うことができるように様子を見ながら言葉を掛けたりした。
- 子どもたちが自分たちのイメージに合わせて工夫しながらつくり上げる姿を見守り, つくり上げた喜びに共感するようにした。
- 積み木の積み方など, 安全面には十分気を付けるように言葉掛けをした。



ここはご飯を食べる部屋にしようね。

【自然と触れ合う】

- ☆ 保育室の金魚にえさをあげたり, カブトムシの成長を楽しみながら観察したりしていた。
- ☆ 園庭にいる虫や, 池にいるエビを探したり, 見たり, 捕まえたりしていた。
- ☆ ピーマンやホウセンカに水を掛け, その成長に気付いていた。

気付く 自然への親しみ 感動体験 伝え合い

- ◇ この時期ならではの自然事象に触れた子どもの感じたことやつぶやいたことに共感するようにした。
- △ 生き物を捕まえた喜びに共感しながら, 生き物の命の大切さに気付くことができるような言葉掛けをするようにした。
- △ 植物の成長と一緒に喜び, これからの成長を楽しみながら世話ができるようにした。

ピーマン おおきくなってきたね!



マットの下にダンゴムシがいるかも!



一緒に持ち上げてみようよ!

【成果】

- つくったものを使って, 友だちと一緒にごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。つくったものを基に遊びを展開したり, 遊びに必要なものをイメージしてつくり出すなど, 遊びと遊びにつながりが出てきていることを実感した。
- 池のエビや園庭にいる虫を積極的に捕まえる姿が見られ, 子どもたちの自然への関心の高さを実感した。保育者も一緒に感動体験することができた。
- 年中児なりに, 役割分担をしたり, 自分のアイデアを遊びの中で生かそうとしたりする姿が芽生えてきていることを実感することができた。

【課題】

- 生き物への興味・関心が高くなり, 捕まえたり観察したりする場面が多くなったが, かかわりには個人差がある。扱い方や命についてはその場面でももちろん, 普段の生活の中でも考えられる機会をつくっていききたい。
- 友だちと一緒に同じ遊びを共有する中での共感し合う場面, ぶつかり合いの場面における, 年中児クラスにおける保育者の在り方を今後も追究していきたい。
- 子どもたちが遊びの中で, 様々な「他」とかかわりながら, 自分らしさを発揮できるような言葉掛けや環境構成について引き続き研修していきたい。

【遊びの価値とつながり】

子どもたちは, 園内の様々な環境に積極的にかかわり, 友だちと誘い合っ, 一緒に好きな遊びを楽しみたいと感じている。友だちと一緒に遊ぶ中でこそ見られる, 「教え合う姿」「試行錯誤しながら取り組もうとする姿」「喜びや悔しさを共感する姿」を大切にしたい。こうした遊びは, 今後友だちと一緒にいろいろな遊びを楽しむ姿, 好奇心をもって様々なものとかかわる姿につながっていくものである。

※ 年中組（ほし組）保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と保育者の援助	今後の保育者の援助の在り方
<p>○ ホウセンカの鉢に水掛けを始め繰り返し水掛けをするうちに鉢は水でいっぱいになる。 保「お水がいっぱいで（ホウセンカ）溺れないかなあ」</p> <p>○ 鉢が水でいっぱいになることを楽しんでいると、A児が芝に水を掛け始める。 A「畑をつくろう！」 B「僕も畑をつくる」 C「水をいっぱい溜めよう」 保「すごいね、みんなで一緒に水を掛けていたら海みたいに水がいっぱいになってきたね」</p> <p>○ できた水溜まりに裸足で入り、飛び跳ねたり、水を手で触ったりし始める。 AC「うわあ～、気持ちいい～」 B「もう夏みたいだもんねえ」 保「本当だね、先生も冷たくて気持ちがいいなあ」</p> <p>○ C児が池のエビをもってきて水溜まりに入れる。C児は、そっと（丁寧に）エビを水溜まりに放す。 保「Cくん、エビさん大丈夫かな」 C「大丈夫だよ」 保「でも、いつも住んでいる池のお水と違うし水が少なくてバタバタしているみたい。苦しいかもしれないなあ」 C「……………」</p> <p>○ C児は急いで虫かごに戻しに行き、今度はジョウロにエビを移し、そこへ水道の水を入れる。 保「エビさんは池の水で住んでいるから水道の水は苦しいかもね」 C「……………」 ※ 溢れるまで繰り返す</p>	<p>○ 子どもたちの「水をいっぱい掛けたい」という気持ちを受け止めながらも「こんなにあげても大丈夫かな」と気付いたり、考えたりするための言葉掛けをした。</p> <p>「水がいっぱいで溺れないかなあ」</p> <p>○ 友だちと場所や遊びを共有しながら一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになってきているので、友だち同士で遊びのアイデアが広がるように見守った。また、水の心地よさを共感できるように保育者も子どもたちと一緒に裸足になり、感じたことを伝え合うように心掛けた。</p> <p>「本当だね、先生も冷たくて気持ちがいいなあ」</p> <p>○ C児の「～してみよう」という思いを受け止め、エビを放すまでは声を掛けずに見守った。そして、行動に移した時に「これでいいのかな」と、エビの生命について考えられるような声掛けをした。ただ、今回C児はこれまでの経験から、まだ状況を判断できないと捉え、具体的な言葉掛けを試みた。</p> <p>「でも、いつも住んでいる池のお水と違うし水が少なくてバタバタしているみたい。苦しいかもしれないなあ」</p> <p>「エビさんは池の水で住んでいるから水道の水は苦しいかもね」</p>	<p>水の掛け方は課題である。幼稚園児だけでなく、小学生でも晴れの日には、水が鉢から溢れるまで掛け続け、雨の日も当たり前のように水掛けをする実態があることが分かった。（指導助言者より）</p> <p>○ 毎日の活動の中で、「土が乾いたら水を掛ける」「土が湿ったらやめる」ことを年中児なりに理解できるように言葉掛けをし、個人差に応じて継続して援助していく。</p> <p>○ 子どもに具体的な判断を急がせてしまうことがないように、子ども自身に自分の行動を振り返らせて、考えられるような言葉掛けをしたり、見守ったりする。</p> <p>○ C児は、自分が溜めた水の中で裸足になり、友だちと一緒に水の心地よさを十分に味わったからこそ、「そこにエビを放せば、エビも気持ちよく泳ぐかも」と思ったのかもしれない。このようなC児の気持ちや思いも汲み取りながら言葉掛けをする。</p> <p>「エビさん、今どんな気持ちかな。このままここに居たら、どうなっちゃうのかなあ」</p>



【子どもの実態】

年長組に進級して様々なことに積極的に取り組む姿が見られる。初夏の自然に興味をもってかかわったり、友だちとイメージを出し合って遊びを進めたりする中で、友だちとかかわる楽しさを味わいながら過ごしている子どもたちである。

【ねらい】

- 友だちと一緒にいろいろな遊びを工夫する。
- 友だちとイメージを出し合い、イメージをひろげながら遊びを楽しむ。
- 身近な自然に興味や関心を持ち、積極的にかかわって遊ぶ。

【内容】

- 友だちと役割分担したり、遊びの進め方を話し合ったりしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
- 一緒に遊ぶ中で、自分の思っていることを話したり、友だちの話を聞いたりする。
- 梅雨期の園庭の様子や空の様子を感じたり、身近な動植物の不思議さや変化の様子に気付く。

☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫 (◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) ○ かわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

- ☆ 空き箱やペットボトルを使って、自分のイメージに合わせてつくりたいものをつくっていた。
- ☆ 友だちがつくるものに刺激を受けながら、自分のつくりたいものをつくらうとしていた。
- ☆ 自分のつくったものを使って、友だちと一緒に遊んでいた。

想像力 創造力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

- 必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
- ◇ 友だちの工夫に刺激を受けながらつくる姿を認め、自分だけではできないところを友だち同士で手伝えるような言葉掛けをしたり、保育者が手伝ったりするようにした。
- 用具などの安全な使い方や片付け方に気付くことができるように機会を見て言葉掛けをした。

空き箱で車をつくったよ。



【ごっこ遊びをする】

- ☆ 友だちと誘い合って家族ごっこをし、必要なものを選び、自分たちで遊ぶ場をつくっていた。
- ☆ 自分のなりたい役になりきって遊んでいた。

想像力 試行錯誤 充実感 他者理解 伝え合い

- 子どもたちが楽しくごっこ遊びができるように、必要な道具や素材を用意しておいた。
- ◇ 友だちと遊びを楽しむ様子を見ながら、互いの思いがうまく伝わらないときは、一緒に話をするようにした。

家族ごっこをしよう。



【環境構成】



- ア:花紙、ガムテープ、モール、紙皿、ポリ袋、はさみ、ダンボールカッター、ペン、鉛筆、ペットボトル、空き箱、ロールペーパー、芯、カップ、牛乳パック、折り紙など
- イ:セロハンテープ、カセットテープ、ラジカセなど
- ウ:ままごと道具 (皿、コップ、コンロ、人形鍋、フライパンなど)
- エ:水槽 (たなご)
- オ:ままごと道具 (エプロン、スカートなど)
- カ:キュウリ、幼虫
- キ:虫網
- ク:オジギソウ、フウセンカズラ
- ケ:砂場道具 (洗面器、スコップ、バケツ、皿、スプーンなど)
- コ:長縄

【大型積み木で遊ぶ】

- ☆ 大型積み木で友だちと一緒に自分たちのイメージを話し合いながら家をつくっていた。
- ☆ 友だちと一緒につくった喜びを味わいながら、つくったもののイメージを保育者に伝えていた。

想像力 創造力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

- 友だちと一緒にイメージを出しながらつくる姿を見守り、つくった満足感に共感したり、工夫したところを認めたりした。
- ◇ 自分の思いを友だちに伝えたり、友だちの思いを聞いたりする姿を見守りながら、その姿を認めるような言葉掛けをした。
- 安全面に気を付けるよう、必要に応じて言葉掛けをした。



【自然と触れ合う】

- ☆ 空の色の暗さなど感じたことを言葉で友だちや保育者に伝えていた。
- ☆ 雨をカップに集めて、水が溜まったり、雨がはじけたりする様子を楽しんでいた。
- ☆ 雨の園庭に傘を差して出掛け、雨の生き物の様子を見ていた。
- ☆ チョウの幼虫やカブトムシの様子を見たり、絵本を眺めたりしながら、成長の様子や体のつくりなどに興味をもっていた。
- ☆ 育てているミニトマトやキュウリ、オジギソウやフウセンカズラの成長の様子に気づき、収穫したキュウリを味わっていた。

気付く 自然への慈しみ 感動体験 充実感

- △ 子どもたちが感じたことを表現する姿を大切に、共感するようにした。
- △ 梅雨の時期ならではの遊びを楽しむ様子を見守り、雨の日も楽しいことがあると感じられるような言葉掛けをするようにした。
- △ 野菜の成長への気付きを大切に、友だち同士で感じたことを伝え合う姿を見守り、共感するようにした。
- △ 雨の日の生き物や植物を見たり、触れたりしながら、その不思議さを一緒に実感し、生き物の生命について一緒に考えるようにした。

雨だけど、虫を見つけたよ。



【成果】

- 雨を使って遊んだり、カタツムリを探しに出掛けたり、水たまりを見付けたりなど、梅雨時期ならではの遊びを楽しむ子どもたちの姿が見られ、この時期にしか味わえない季節感を一緒に味わうことができた。
- 友だちと一緒に遊ぶ中で、「こうするともっと面白くなりそうだな」「こうやったらどうなるかな?」など自分たちで工夫して遊ぶ姿から、自分で試してみても新たに発見したときの喜びが大きいことが分かった。
- 様々な虫とかかわりの中で、不思議さを一緒に感じながら、捕まえた後、どのように扱うのかを子どもたちとその都度、繰り返し話題にすることで、子どもたちの生き物への意識が続いていることが実感でき、生命を大切に感じるようになる姿が見られるようになってきた。

【課題】

- この時期ならではの雨とかかわりの中で、子どもたちにどのようなことを味わってほしいのか (どのような子どもに育てたいのか) をもっと意識しながら、環境構成を工夫していきたい。
- 生命の大切さ、尊さについて子どもたちが実感できるように、様々な場面でその場に応じた言葉掛けをしながら、一緒に考えていきたい。
- 友だちとかかわりの中で子どもたちが何を楽しみ、喜びを味わっているのかを見極め、遊びがもっと楽しくなるような仕掛け (環境構成) を探していきたい。

【遊びの価値とつながり】

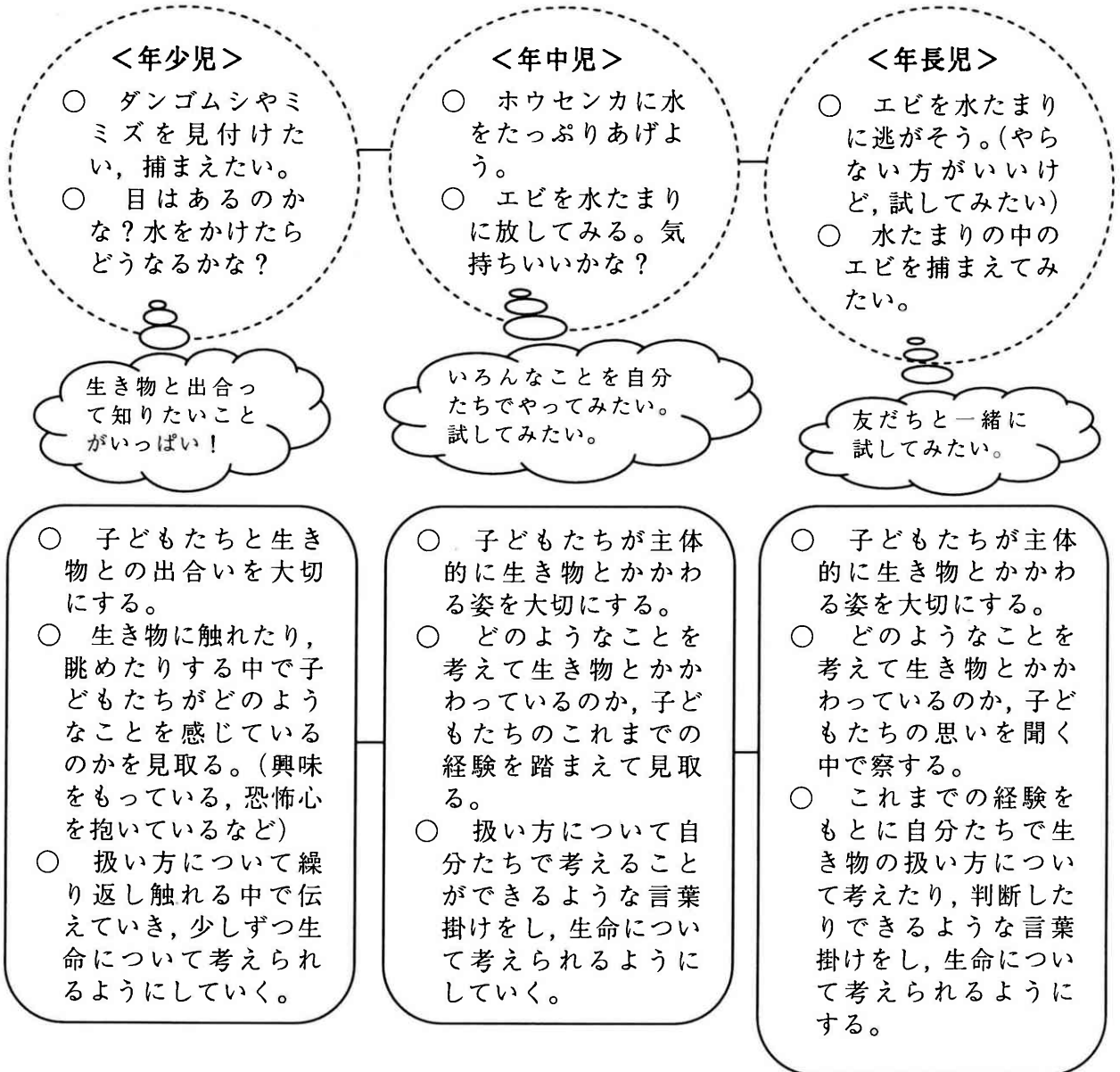
この時期の子どもたちは、友だちと一緒に過ごす心地よさを感じたり、積極的に自然とかかわったりする姿が見られる。そこで、梅雨の時期であることを踏まえ、子どもたちの様々な自然との出会いを大切に、友だちと一緒に実際に見たり触れたりする中で自然の不思議さや面白さに気づき、大切にしようという気持ちを育んでいきたい。こうした遊びは、今後、友だちと協同して遊びを進めようとする姿や自然を慈しみ生命の尊さに気付く姿へとつながっていくものであると考える。

※ 年長組（うみ組）保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と実際の保育者の援助	今後の保育者の援助の在り方
<p>○ 小雨の中，池でエビ捕りをする。 A「エビいる（欲しい）人〜」 B「ちっちゃいエビ」 C「Bくん，エビこっち！」 （水たまりにエビを放すことをうながす） B「分かった！」 （BとCがエビを水たまりに放す）</p> <p>○ A，B，Cの3人で水たまりに放したエビを虫網で探していると，先生がやってくる。 C「エビ，入れちゃった」 A「エビ逃がしちゃった」 B「2匹！」 保「えっー，みんなで探そう！」 D「とにかく網で捕まえよう」</p> <p>○ 水たまりの底を虫網ですくったり，手で水をすくい出したりしながらエビを探す。 保「Cくん，池の水と違うからエビさん大変かも・・・」 （しばらくして） B「エビ，いたいた！」 保「よかったあ」</p> <p>○ 残りの1匹を探し続けるがなかなか見付からない。 保「Bくん，Cくん，あと1匹どうするの？」 B・C（しまったなあという表情をする） 保「今日は残念なことをしちゃった。エビさんにかわいそうなことをしたよ。ここ（水たまり）はおうちじゃないんだよね」</p>	<p>○ 雨の日の生き物にも興味をもって出掛ける姿を見送った。</p> <p>○ エビを水たまりに入れたことを伝えてきた子どもたちの言葉を聞き，驚いて急いで探すことを提案した。</p> <p>「えっー，みんなで探そう！」</p> <p>逃がしてしまったエビを助けようと悪戦苦闘し，一匹見付かってほっとしている。</p> <p>○ 子どもたちと一緒にあってエビを探しながら，エビの生命について考えることができるように言葉掛けした。</p> <p>「Cくん，池の水と違うからエビさん大変かも・・・」</p> <p>「今日は残念なことをしちゃった。エビさんにかわいそうなことをしたよ。ここ（水たまり）はおうちじゃないんだよね」</p> <p>エビが見付からなかったことで，自分たちがやってしまったことをしまったなと思っている。</p>	<p>水たまりにエビを放したらどうなるのか，濁った水たまりの中から放したエビを捕まえてみたいという，試したい気持ちをもっていた。（子どもの言葉の記録より）</p> <p>○ 子どもたちがどのような思いでエビを放したのかを聞くことができるように，子どもの言葉を待つ言葉掛けをする。</p> <p>「えっー！」</p> <p>○ 子どもたちがエビを放してしまった自分たちの行動を振り返り，自分たちで判断できるような言葉掛けをする。</p> <p>「エビは池と水たまりとどっちが幸せだったのかな・・・」</p>

1学期に実施した研究保育・保育研究から、年少、年中、年長の子どもたちが生き物とかかわるときの思いの違いや保育者の援助の在り方について大切にしたいことを次のようにまとめることができた。

～子どもたちが生き物とかかわるときの思いと保育者の援助について（6月の事例から）～



【子どもの実態】
 「一緒に遊ぼう」と友だちを誘ったり、自分のしたいことを友だちに伝えようとしたりする姿が見られ、友だちとかかわって遊ぶ面白さを味わうようになってきた。時折、ぶつかり合うこともあるが、保育者に互いの気持ちを代弁してもらうなどして、自分の気持ちに折り合いをつける経験もしている。

【ねらい】
 ○ 好きな遊びを見つけて楽しむ中で、友だちとかかわって遊ぶ。
 ○ 戸外で遊んだり、体を動かしたりする中で、自然に触れ、季節の移り変わりを知る。

【内容】
 ○ かけっこやかくれんぼ、ごっこ遊びなどいろいろな遊びを友だちと一緒に楽しむ。
 ○ 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
 ○ いろいろなものを使って、何かをつくる楽しさを味わう。
 ○ 自分がしたいことを言葉で保育者に伝え、できたことを喜ぶ。
 ○ 防寒着の始末や手洗い・うがい、後片付けなど自分でしようとする。

☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫(◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) かかわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】
 ☆ 空き箱や平テープ、ストロー、ソフト積み木、新聞紙などで、自分がつくりたいものをつくっていた。
 ☆ つくったものを使って、友だちや先生と一緒に遊んでいた。



想像力 試行錯誤 満足感

□ 「～したい」という思いを実現するために必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
 ◇ はさみやセロハンテープの扱い方など安全面に留意しながら、何がしたいのか、何をつくりたいのかを丁寧に受け止めるようにした。

【ごっこ遊びをする】
 ☆ 家族やアニメの登場人物など好きな役になりきって遊んでいた。
 ☆ 「仲間に入れて」など必要な言葉を使って友だちと一緒に遊んでいた。



想像力 自分を出す 人とかかわる楽しさ 満足感

□ 遊びに必要なものを使いやすい場所に用意しておいた。
 ◇ 遊びの様子を見守り、必要に応じて言葉を補足するなどして、互いの思いが伝わるようにした。

【体を動かして遊ぶ】
 ☆ ぶらんこやグローブジャングル、回転板などの固定遊具に乗って遊んでいた。
 ☆ 友だちや先生と一緒にかくれんぼやかけっこをして遊んでいた。



体を動かす楽しさ 人とかかわる楽しさ



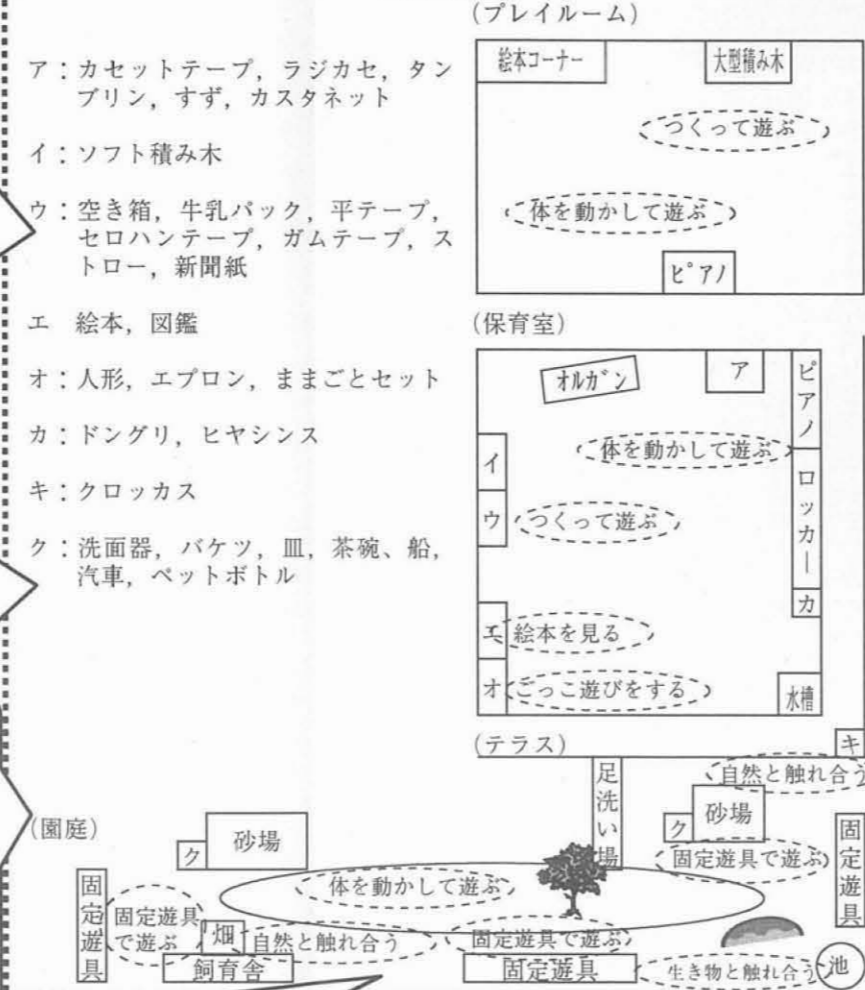
もういいかい?

先生、ここに隠れてると、みんなが見えるんだよ。

まあだだよ!

◇ 保育者も一緒に体を動かして遊び、体が温まってくることを共に味わったり、展開をリードして遊びの面白さを伝えたりしていくように努めた。

【環境構成】



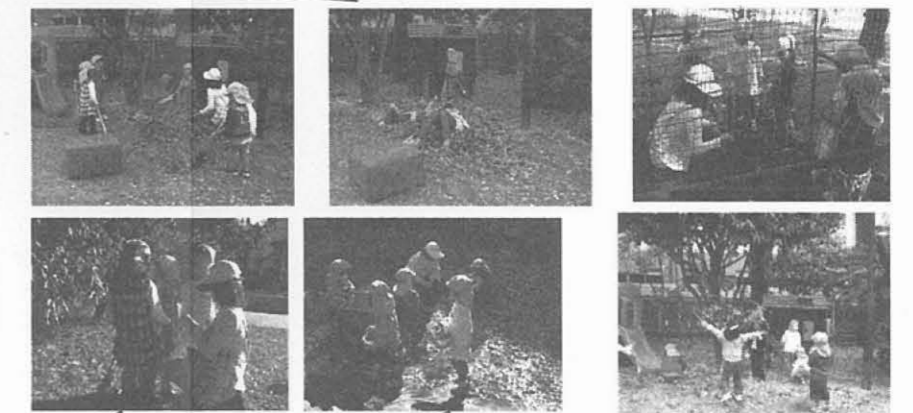
【砂と水を使って遊ぶ】
 ☆ 年長児と一緒に穴を掘り水を流し入れ、池に見立てて遊んでいた。
 ◇ 年長児と一緒に見立てて遊ぶ面白さを共感的に受け止めるようにした。

【自然と触れ合う】

☆ イチョウやユリノキ、カエデなどの落ち葉を集めたり、布団に見立てて寝転がったり、葉っぱの雨を降らせたりしていた。
 ☆ 二十日大根の様子を見たり、水を掛けたり、間引きした芽を味わったりしていた。
 ☆ アラカシやマテバシイを拾ったり、割ったりしていた。
 ☆ 「葉っぱのお風呂にしよう!」「太陽の光で(葉っぱが)きれいに見えるよ!」「(アラカシの)中身は何色かな?」などと、感じたことや不思議に思ったことを言葉や体で表現していた。
 ☆ ウサギやニワトリを見たり、えさをあげたりしていた。

自然への親しみ 感動体験 気付く 想像力 試行錯誤 自信 満足感 人とかかわる楽しさ

(ここから見たら)葉っぱと葉っぱがきらきら光ってるよ!



アラカシを割ったら... 葉っぱのお金がいっぱい!



△ 保育者も一緒に見たり、触れたり、嗅いだり、味わったりして子どもたちの発見や感動に共感していくようにした。
 △ 保育者も一緒にクロッカスや二十日大根の様子を見たり、水を掛けたりして成長を楽しみにできるような言葉掛けをするようにした。

【成果】
 ○ 担任・副担任とで分担し、「仲間に入れて」「貸して」などの言葉を使って友だち遊ぼうとする姿を見守り、互いの会話をつなげたり、方向付けしたりして保育に努めるようにした。
 ○ 「他」とかかわって遊ぶ面白さを味わえるような場を工夫し、「他」のよさに気付くような言葉掛け(「みんなですると面白いね」「アラカシっていい隠れ場所だね」「○○くんって隠れるの上手だった」等)に努めることができた。
 ○ 遊びの面白さが十分味わえるよう展開をリードしたり、「自分も仲間の一人だ」という満足感が味わえるように努めたりしたところ、「またしよう」「もう一回しよう」など繰り返して遊ぼうとする姿が見られた。

【課題】
 ● 「他」とかかわって遊ぶ中で、「他」とかかわるよさを味わう自然な姿を受け止めていくようにしたい。
 ● 友だちとかかわって遊ぶ中で、「～したい」という互いの自己主張からぶつかり合う場面がいくつかあった。一人一人の思いを共感的に受け止めつつも、相手に気持ちを伝える、気付く援助を工夫していきたい。
 ● 「他」とかかわって遊ぶ中で一人一人味わう感動は様々である。その感動を友だちと共有できるような場や言葉掛けの仕方など一層工夫していきたい。

【遊びの価値とつながり】
 この時期は、かけっこやかくれんぼなどの遊びを通して体を動かして遊ぶ楽しさを味わいながら、保育者や友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむとともに、体が温まってくることを経験できるようにしたい。かけっこやかくれんぼは全身を動かして、体を動かす心地よさを味わえるとともに、多くの友だちと一緒にかかわって遊ぶことができる遊びである。また、園庭の木々を見たり、カエデやイチョウ、アラカシなどを拾ったり、遊びに使ったりすることなどを通して、その大きさ、美しさを感じられるようにもしたい。
 こうした遊びを繰り返して経験していくことは、全身を思い切り使って自らの運動欲求を満たしたり、身近な自然の事物や事象とかかわって好奇心を満足させたりして活動していく姿へとつながっていくものである。

※ 年少児(はな組)保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と実際の保育者の援助	今後の保育者の援助の在り方
<p>○ 保育者をかくれんぼに誘う。 A「先生、かくれんぼ！」 保「かくれんぼが何？」 A「ぼくと一緒にかくれんぼしよう！」 保「いいよ。ほかの友だちも誘ってみたら」 B「私も」 C「ぼくも！」 D「仲間に入れて！」</p>	<p>先生と一緒にかくれんぼをしたい</p> <p>○ 子どもの思いを受け止めるとともに、ほかの友だちも誘ってみることを提案した。</p>  <p>友だちと一緒に遊ぶ面白さも味わってほしいな</p> <p>「ほかの友だちも誘ってみたら」</p>	<p>○ 子どもたちが自主的に遊ぶようになってきている。「したいこと」もはっきりしてきているので、一人一人の思いや気付きを受け止め、その感動を代弁したり、言葉で補ったりするなどしてみんなで共有できるようにしていく。</p>
<p>○ 友だちを誘いに行く。 A「かくれんぼしよう」 E「いいよ！」 F「しない！今、つくってるんだもん」 保「Aくん、Fちゃんは今、お料理をつくってるところだから、また今度、誘ってみようよ」</p>	<p>○ 遊びに誘ったり、誘われたりする様子を見守りながら、必要に応じて言葉を補った。</p> <p>「Fちゃんは今、お料理をしているところだから、また今度、誘ってみようよ」</p>	
<p>○ 鬼になるか、隠れるかを決め、ルールを確かめる。 保「隠れる人だあれ？」 ABCD「は～い！」 保「鬼になる人は？」 E「は～い。先生と一緒に探す！」 保「十数えて『もういいかい』って言うよ。隠れていたら、『もういいよ』って言ってね」 GH「仲間に入れて！」 ABCDEF「いいよ！」 保「ほし組さんも一緒だ！面白くなりそうだね」</p>	<p>○ 誰が鬼で、誰が隠れるかをはっきりさせるとともに、遊びのルールを確かめるようにした。</p> <p>「隠れる(鬼になる)人は誰？」「十数えて『もういいかい』って言うよ。隠れていたら、『もういいよ』って言ってね」</p>	
<p>○ かくれんぼをする。 E保「もう いいかい」 AFG「まあだだよ！」 E保「もういいかい」 ABCDEF「もういいよ」 保「みんな、どこに隠れたのかなあ」 E「どこに隠れたのかな」 保「Bちゃん、見付けた！Cくん、見付けた！」 E「見付けた～！今度は、逃げる！」 保「いいよ！でも、まだAくんが見付からない。どこかなあ」</p>	<p>○ 遊びの面白さを十分味わえるように遊びの展開をリードするようにした。また、名前を呼んで遊びを進めることで「自分も仲間の一人」という喜びが味わえるようにした。</p> <p>「もう いいかい」「みんな、どこに隠れたのかなあ」「○○ちゃん(くん)、見付けた！」</p>  <p>ドキッ、Aくん、いつも隠れるところにはいないぞ。どこに隠れたのかな</p>	<p>○ かくれんぼを繰り返す中で、これまでの経験から新たな隠れ場所を見つけていく姿を大事にしていく。</p>
<p>○ みんなでA児を探す。 保「あ～、いた～！」 A「ずっとここにいたんだよ。アラカシの後ろ」 保「ここからみんなが探しているの見ていたの？」 A「そうだよ。先生、こっち来て！ねっ、ここから見えるでしょ」 保「アラカシって、いい隠れ場所だね。みんな、Aくんに拍手～」 BC「ほんとだ、見える！Aくん、すごい！」</p>	<p>○ 上手に隠れることができたA児の喜びを受け止め、みんなで賞賛するとともに、アラカシがよい隠れ場所にもなることに気付けるようにした。</p> <p>「ここからみんなが探しているの見ていたの」「アラカシっていい隠れ場所だね」「Aくんに拍手～！」</p>	<p>○ 今こそ、幼稚園にあるものに出会っている時期である。かくれんぼなどの遊びを通して、体を動かすと気持ちがいい、みんなですると面白い、最後まで隠れることができて嬉しいなど、心が揺さぶられる経験を繰り返し味わっていく自然な姿を大事にしていく。</p> <p>「体が温かくなってきたね」「みんなですると面白ね」など</p>



<p>【子どもの実態】 子ども同士のかかわりがさらに深まり広がってきている。友だちと役割を分担しながらのごっこ遊びや、秋や初冬の自然に見られる落ち葉や木の実をいろいろなものに見立てて遊びながら、好きな遊びを存分に楽しんでいる。</p>	<p>【ねらい】 ○ 秋の自然や、初冬の自然に興味をもち、遊びの中に取り入れる。 ○ 気の合う友だちとかかわり合って遊ぶ。</p>	<p>【内容】 ○ 気の合う2、3人の友だちと一緒に遊ぶ。 ○ 自分なりに考えたり、試したりしながら、好きな遊びを存分に楽しむ。 ○ 友だちとイメージを出し合いながら、表現する楽しさを味わう。</p>
---	---	--

☆ 幼児の生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫 (◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) ○ かわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

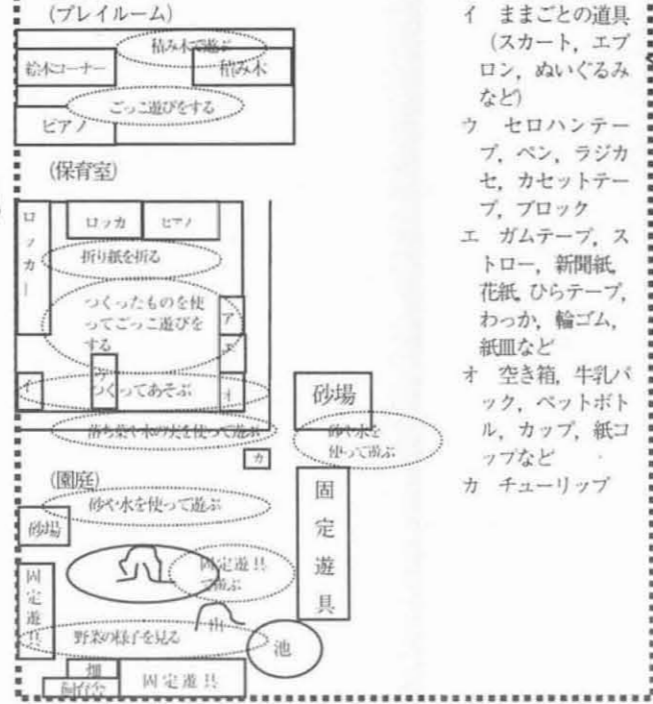
- ☆ 空き箱やロールペーパーの芯などを使ってイメージしたものをつくっていた。
- ☆ つくったものを使って友だちと遊んでいた。
- ☆ 園庭で拾った木の実や落ち葉を使って、いろいろなものをつくっていた。
- ☆ 積み木を使って、家や飛行機、基地などを友だちと一緒につくっていた。

創造力 想像力 試行錯誤 人とかかわる楽しさ 満足感

- ◇ 自分のイメージするものを自分なりのやり方で試したり工夫したりする姿、友だち同士で助け合ったりつくりたいとする姿を認める言葉掛けをしながら、保育者も必要に応じて手伝った。
- 材料や用具を十分にそろえておいた。
- ◇ 友だちと一緒に作る場面では、お互いの意見を主張するようになるので、見守りながら、必要に応じてお互いの気持ちを保育者が仲介となって十分に受け止め、話し合っ解決していくようにした。



【環境構成】



- ア 金魚の水槽、イ ままごとの道具 (スカート、エプロン、ぬいぐるみなど)
- ウ セロハンテープ、ペン、ラジカセ、カセットテープ、ブロック
- エ ガムテープ、ストロー、新聞紙、花紙、ひらテープ、わっか、輪ゴム、紙皿など
- オ 空き箱、牛乳パック、ペットボトル、カップ、紙コップなど
- カ チューリップ

【ごっこ遊びをする】

- ☆ お店屋さんごっこなどのごっこ遊びを楽しんでいた。
- ☆ 自分がつくったものを使ったり着たりして、ヒーローやヒロインになりきって遊んでいた。

想像力 自分を出す 伝え合い 人とかかわる楽しさ 満足感

- ◇ 自分なりのやり方で試したり工夫したりしている姿を認め、自信をもつことができるようにするとともに、機会を捉えて他の子どもたちにも知らせ、してみたいという気持ちをもてるようにした。



【自然と触れ合う】

- ☆ 落ち葉や木の実などを使って、ごっこ遊びや製作をしていた。
- ☆ 落ち葉や木の実などを拾ったり、集めたりしていた。
- ☆ 野菜や花の草取り、水掛けをしていた。

気付く 自然への親しみ 感動体験 伝え合い

- △ 子どもたちを戸外にできるだけ誘い、一緒に木の実や落ち葉を拾ったり、集めたりする中で、自然の美しさや不思議さなどに気付くようなかわり方を工夫した。
- △ 自然物を使って製作をする活動が見られるので、楽しめるように環境を整えておいた。



【砂や水を使って遊ぶ】

- ☆ 友だちと協力しながら山や海をつくっていた。
- ☆ 砂と水を混ぜ合わせてチョコレートやケーキなどの料理をつくって遊んでいた。
- ☆ 砂や水と落ち葉、木の実などを混ぜて遊んでいた。

創造力 想像力 試行錯誤 伝え合い 感動体験

- △ 砂や水を使った遊びでは、感触を十分に楽しみながら、いろいろなものをつくったり、見立てたりする楽しさを共感していくようにした。
- ◇ 友だち同士で協力したり工夫したりしながら遊ぶ姿を見守り、保育者も仲間に入るようにした。
- △ 砂や水だけでなく、木の実や落ち葉などを使って遊びを膨らませていく姿を認め、季節の素材を感じながら遊べるようにした。



【体を動かして遊ぶ】

- ☆ 友だちや先生と一緒にかくれんぼをしていた。
- ☆ ブランコやグローブジャングル、回転板、鉄棒、フラフープなどで遊んでいた。

体を動かす楽しさ 人とかかわる楽しさ 満足感

- ◇ 子ども同士で役割を決めようとする気持ちの芽生えを受け止めながらも、大事なルールのポイントは共通理解できるようにした。
- ◇ 挑戦しようとする姿を認め、意欲や自信がもてるように励ましたり援助したりした。
- ◇ できたことを一緒に喜び、達成感を味わえるようにしたい。



どんどんスピードが出てきた!

【成果】

- 子ども同士で、役割を分担して遊ぶ姿を大事に見守った。自分のアイデアを出したり友だちのアイデアを生かそうとしたりする姿も見られ、友だちと一緒に遊びを広げていけるようになっていくことを実感した。
- 落ち葉や木の実を使ってお店屋さんをしたり、料理をしたりして遊ぶ姿が見られ、子どもたちの想像力や自然への関心の高さを知ることができた。
- 友だちと一緒に同じ遊びを共有する中での共感し合う場面、ぶつかり合いの場面にかかわる中で、この時期の保育者の在り方を考えるよい機会となった。

【課題】

- 保育者が予想していなかった遊びを子どもたちが提案してきたときに、戸惑う場面があった。子どもたちの「やりたい」という気持ちを受け止め、応えてあげられるように心掛けているが、保育の「ねらい」も大事にしなければならない。今後も理論研究、実践研究を深めていきたい。
- 友だちと一緒に同じ遊びを共有する中での共感し合う場面、ぶつかり合いの場面における、年中児クラスにおける保育者の在り方を今後も追究していきたい。
- 自然とかかわりの中で、自然物を使った製作遊びやごっこ遊びが多くなりがちである。もっと体全体で自然を感じられる保育を目指していきたい。

【遊びの価値とつながり】

この時期の子どもたちは、友だちとかかわりも深まり、好き遊びを友だちと一緒に広げながら遊べるようになっていく。この中で見られる「子ども同士が遊びに必要なものを考え一緒に準備する姿」「ゲームに必要なルールを守ろうとしながら遊ぶ姿」を大切にしていきたい。こうした遊びは、今後、協同して遊びを進めていく姿につながっていくものと考えている。

※ 年中組（ほし組）保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と保育者の援助	今後の保育者の援助の在り方
<p>○ かくれんぼの仲間を集める。 A 「先生、かくれんぼしたい！」 B 「かくれんぼ！」 保 「いいよ、でも3人だけだとさみしいな。他にする人がいないか聞いてみるね」 A 「うん、そうだね」 保 「Cくん、Dくん、Eくん、かくれんぼしない？」 C 「やる！」 / D 「ほくもやる」 E 「ほくが鬼になろうか？」 保 「かくれんぼジャンケンするよ、負けた人が鬼ね」 (みんなでジャンケンをする) 保 「最初はCくんに鬼になってもらいましょう、鬼が数える場所はどこにする？」 C 「木の所にする、1、2、3、・・・も～いいか～い？」 ○ さらに人数が増えて、かくれんぼを再開する。 保 「次はEくんが鬼だね。1～10を5回数えてね！」 E 「1. 2. 3. ・・・も～いいか～い？」 E 「も～いいか～い？」 (みんなが「もういいよ」というまで何度も聞く) AB 「Eくん、こっちにいるよ～」 E 「まだ隠れていない人がいる！も～いいか～い？」 E 「○○くん、見～付けた！」 保 「あとはFくんだけだね、どこにいるのかなあ。みんなも一緒に探してみよう」 E 「Fく～ん、もう片付けの時間だぞ～」 (Fくを罾にかけようとする姿) (その後、E児は犬の様に臭いを嗅いで探すが見付からない) G 「先生、Fくんがいたよ」 保 「わあ！Fくん、どこに隠れていたの？」</p>	<p>○ 「かくれんぼ」がしたいという思いを受け止め、大勢で遊ぶ楽しさを味わえるように、他の友だちも一緒に参加できるような言葉掛けの工夫をした。</p> <div data-bbox="544 495 948 658" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「でも3人だけだとさみしいな。他にする人がいないか聞いてみるね」</p> </div> <p>○ 子ども同士で役割を決めようとする気持ちが芽生えてきていることを受け止めながらも、大事なルールのポイントは共通理解できるようにした。</p> <div data-bbox="544 869 963 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「負けた人が鬼ね」 「最初はCくんに鬼になってもらいましょう」</p> </div> <p>○ 人数が増えると、ゲームの進行状況が全体に伝わりにくくなるので、状況を見て必要に応じた援助ができるように意識しながら見守った。</p> <p>○ 園庭の木の陰や草むらに隠れるときは、子どもたちに植物の特徴を伝えられるよう心掛けた。</p> <p>○ 葉や枝が体に触れる感触や落ち葉を踏みしめたときの音、匂いなどを味わえるように、保育者も諸感覚を働かせながら楽しんだ。</p> <p>○ ルールを忠実に守ろうとする子どもの姿を大切に。</p> <p>○ 鬼の気持ちが持続できるように、先に見付かった友だちと一緒に様子を見守ったり、探すのを手伝ったりしたりしながら励ました。</p>	<p>○ 大勢で遊ぶ楽しさを味わってほしいという保育者の気持ちが急いでしまい、かくれんぼを始める前に保育者が率先して仲間集めをしてしまった。子どもの言葉を待つ言葉掛けをする。</p> <div data-bbox="999 589 1402 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「でも3人だけだとさみしいな」</p> </div> <p>○ 保育者が感じたことや気付いたことを周りに意図的に伝えるようにして、自分たちが感じたことや気付いたことを伝え合い、共感できる雰囲気を中心掛ける。</p> <div data-bbox="999 1480 1402 1783" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「今、この木の葉っぱが顔に当たってびっくりしちゃった。よくみたら葉っぱの先がチクチクとがっているよ」 「ここの落ち葉の上を歩くとザクッ、ザクッって音がする～」</p> </div>




<p>【子どもの実態】 積極的に身近な自然とかかわり、園庭の木の実や落ち葉を集めて、自分たちの遊びに取り入れ、自然とのかかわりを存分に楽しんでいる姿が見られる。また、好きな友だちだけでなく、自分のしたい遊びと一緒に楽しもうと、様々な友だちを誘う姿も見られ、自分たちで話し合っ遊びをつくり出す面白さを味わっている。</p>	<p>【ねらい】 ○ 友だちと話し合い、協力し合いながら目的をもって楽しく遊ぶ。 ○ 深まる秋の自然を積極的に自分たちの遊びに取り入れて遊ぶ。</p>	<p>【内容】 ○ 自分たちで工夫して園生活を楽しむ。 ○ 友だちと遊ぶ中で、役割分担しながら、共通の目的をもって遊ぶ。 ○ 遊びの進め方やきまりなどを自分たちで話し合いながら進めようとする。 ○ 身の回りにある自然に興味をもってかかわり、自然物を使っていろいろな遊びを楽しむ。</p>
<p>☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫 (◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) ○ かわりによって育まれる体験</p>		

【ごっこ遊びをする】

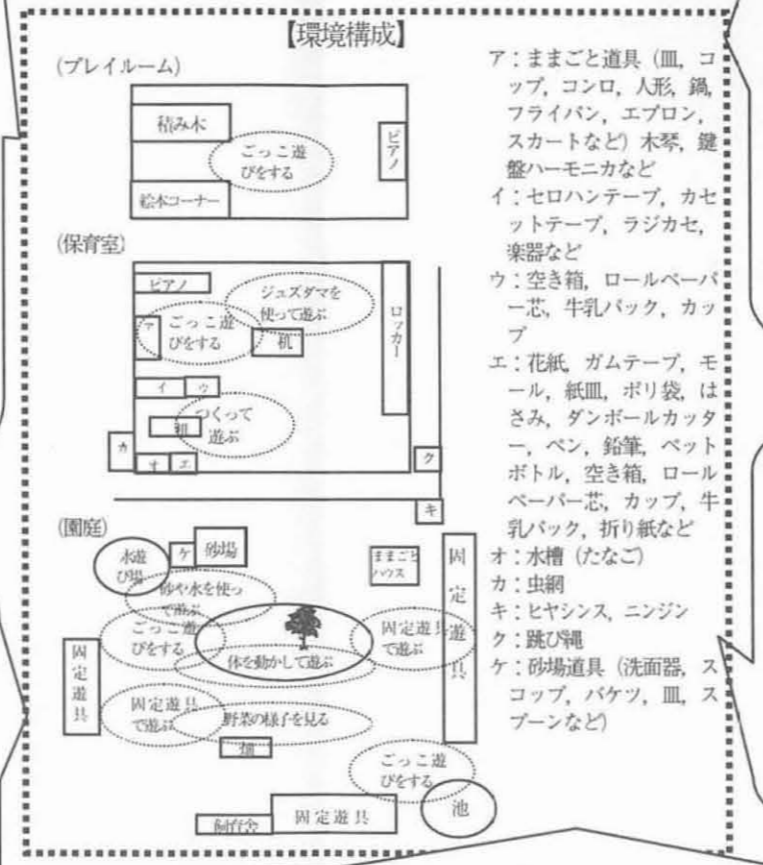
☆ 友だちと誘い合っ「お花イチョウ屋さん」というお店を開き、自分たちで必要なものを選び、話し合いながら必要なものをつくり、友だちや保育者をお客さんとして招いて遊んでいた。
☆ 自分のなりたい役になりきって遊んでいた。
☆ 木琴や鍵盤ハーモニカを使って演奏ごっこをしていた。

想像力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

子どもたちが楽しくごっこ遊びができるように、必要な道具や素材を用意しておいた。
◇ 友だちと遊びを楽しむ様子を見ながら、保育者もお店の一員となって遊びに加わり、一緒に楽しむようにした。



わたしはイチョウのお花がほしいな。




【つくって遊ぶ】

☆ 空き箱を使って、自分のイメージに合わせてつくりたいものをつくっていた。
☆ 友だちがつくるものに刺激を受けながら、自分のつくりたいものをつくろうとしていた。
☆ 自分のつくったものを使って、友だちと一緒に遊んでいた。
☆ 折り紙の本を見ながら、自分のつくりたいものを折っていた。

想像力 創造力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
◇ 友だちの工夫に刺激を受けながらつくる姿を認め、自分だけではできないところを友だち同士で手伝えるような言葉掛けをするようにした。
 用具などの安全な使い方や片付け方に配慮した。




こんな車をつくったよ。

【自然と触れ合う】

☆ 落ち葉や木の実を拾って遊びに使いながら、深まる秋を感じる姿が見られた。
☆ ジュズダマやワラ、イチョウなど秋の自然物を使って遊んでいた。
☆ 育てているヒヤシンスやニンジン、タマネギに水を掛けながら、その成長の様子を楽しみにする姿が見られた。

気付く 自然への慈しみ 伝え合い 感動体験 充実感

△ 葉の色の変化や様々な落ち葉、木の実などに気付き、遊びに取り入れる姿を大切に、一緒に深まる秋を感じるようにした。
△ 秋の収穫物を使った楽しい遊びを知り、遊びがさらに充実するように、ジュズダマをつなぐための用具や束にしたワラを置くなどの環境を工夫した。
△ ヒヤシンスや野菜の成長を楽しみにする姿を大切に、気付いた変化 (根が伸びた、小さな芽が出てきたなど) に共感するようにした。




ジュズダマ、なかなか通らない・・・

【砂や水を使って遊ぶ】

☆ 友だちや異年齢児と一緒に砂や土に水を入れながら、その感触を楽しんだり、料理をつくったりしていた。
☆ 型に砂をつめてつくった料理に落ち葉や木の実を飾って、友だちに料理をふるまっていた。

気付く 想像力 創造力 充実感 満足感

◇ 砂や砂と水が混ざり合ったときの感触を十分に味わいながら、友だちとイメージを共有して遊ぶ姿や自然物を取り入れて遊ぶ姿を見守ったり、仲間になったりした。




ケーキですよ。どうぞ。

【体を動かして遊ぶ】

☆ 友だちと誘い合っ、かけっこや「けいどろ」などの鬼ごっこなどをしながら園庭を駆け回っていた。
☆ 友だちと一緒にいろいろな固定遊具や跳び縄を使って遊び、友だち同士でできる場所を見せ合ったり、教え合ったりしていた。

体を動かす楽しさ 充実感 満足感 他者理解

◇ 友だちと誘い合っ遊びを始める姿を見守り、様子を見ながら遊びに加わり、ルールのある遊び (けいどろなど) の面白さを共に味わうようにした。



まて、まて～!

【成果】

- 前日の子どもたちの様子を受けて環境を構成していたことで、子どもたちの自然 (イチョウの葉) とのかかわりが継続して見られ、保育者も一緒に楽しむことができた。
- 誰もいない場所に対して「ここ使っているのかな？」と近くの友だちに確認する姿が見られ、子どもたちが集団でのルールを意識できていると見取ることができた。
- どの遊びに加わろうか迷っている子どもに対して、一緒に園内を散策しながら、友だちの様子に気付かせる援助が、自分のやりたいことを見付けることへとつながった。

【課題】

- 「協力し合いながら目的をもって楽しく遊ぶ」というねらいは、子どもたちのどのような姿を表し、どのようなときに達成できたとするのかをもっと明確にしたい。
- 子どもたちが友だちと協力したり、目的をもって、もっと、じっくり、たっぷりと遊びに浸ったりして充実感を味わうためにはどのような環境構成が必要なのか、保育者としてどのような援助をしていけばよいのか、今後も探っていきたい。

【遊びの価値とつながり】

この時期の子どもたちは、友だちと誘い合っ遊びを進め、遊びの中で話し合ったり、協力し合ったりする姿が見られる。秋の深まりを感じながら過ごすことのできるこの時期、イチョウの葉などの様々な自然物を使って子どもたちが主体的に遊びを楽しみ、自分たちで役割分担しながら遊びを進める姿を大切にしたい。

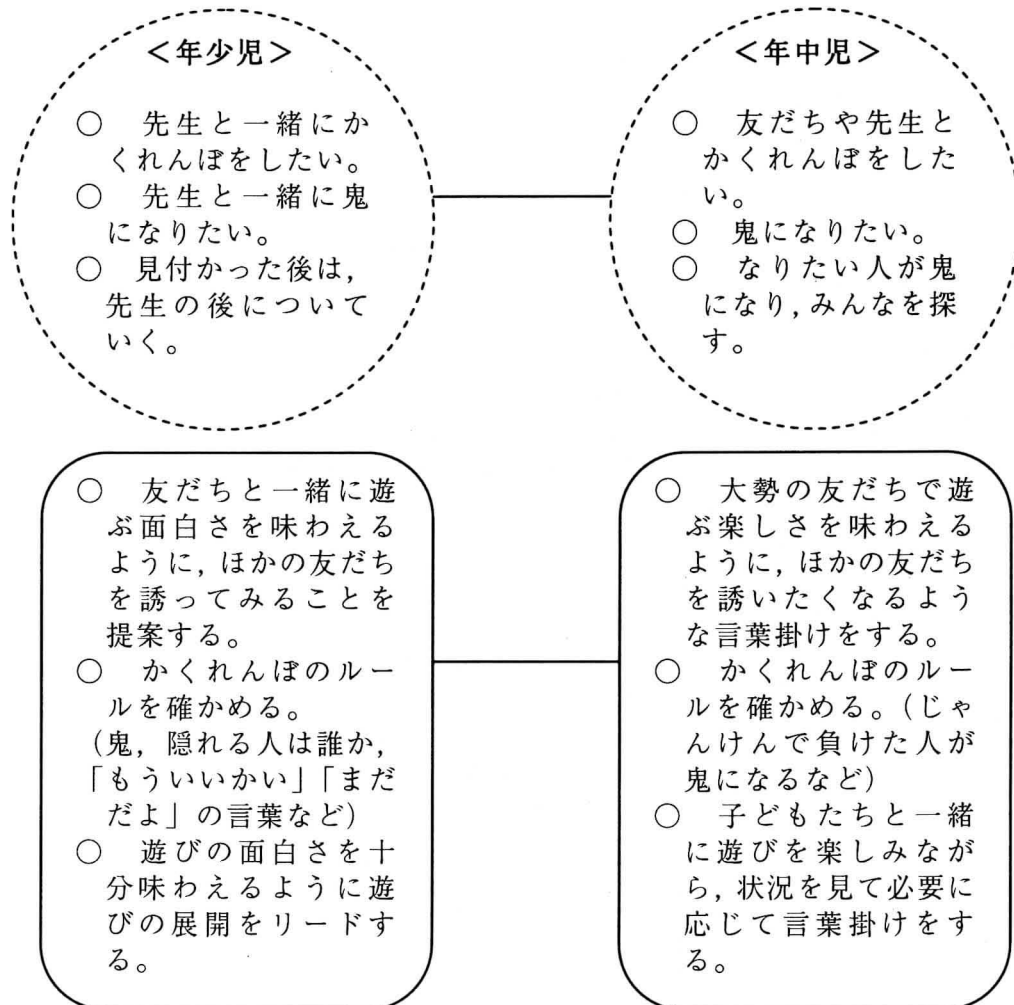
こうした遊びは、さらに友だちと協同して遊びを進め、学級という集団での活動も楽しむようになる姿へとつながっていくものであると考える。

※ 年長組（うみ組）保育研究から

子どもの姿	子どもの姿の解釈と実際の保育者の援助	今後の保育者の援助の在り方
<p>○ お店屋さんの準備を始める。 A「今日は、イチヨウのお店屋さんをするんだったよね」 保「昨日のイチヨウの葉っぱとかご、置いておいたよ。テーブルはどこに置こうかな」 A「Bちゃん、Cくん、行くよ〜」 C「ここに椅子を持ってきたら（いいね）」 B「何屋さんって言ったらいい？」 A「お花紙の花も一緒だから・・・」 A B「いらっしやいませ〜、お花イチヨウ屋さんがありますよ」</p> <p>○ 年中児、年長児のお客がやってくる。 B「一列に並んで。何がいい？」 中「お花、お花」 B「お花つくってるからね。これ、いる？」 中「いる！」 A「Bちゃんがイチヨウのキツネつくって。先生が（イチヨウの）花をつくるから」 保「お待たせしました。お花どなたでしょう？はいどうぞ」 B「（イチヨウのキツネを見せながら）これサクランボみたいでしょう。キツネの反対にしたの。Cくんは花紙の店長だからね」 C（黙々とイチヨウの葉を集める。）</p> <p>○ お客だった年中児がやってくる。 中「仲間に入れて」 C「いいよ」</p>	<p>○ 前日の遊びを翌日も続けたいという子どもたちの思いを受け止め、前日に使ったイチヨウの葉、かご、テーブルなどをセットにして保育室近くに置いておいた。</p> <p>○ 子ども同士でお店の準備を進める姿を見守り、仲間になってイチヨウの葉を集めたり、子どもたちからもらったイチヨウの葉で花束をつくったりする作業を進めた。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自分の役割が決まり、お店を開こうとはりきって準備をしている。</p> <p>○ 自分たちでお客を呼び、お店屋さんを始めた姿を見守り、お店の一員として注文されたものをつくったり、子どもたちの仲間となってお店屋さんになりきって子どもたちと会話したりするようにした。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「お待たせしました。お花どなたでしょう？はいどうぞ」</p> <p>○ 自分なりに工夫してイチヨウの葉を使うB児の姿を認め、イチヨウの葉とかかわる楽しさを感じられるような言葉掛けをした。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「Bちゃんの面白い。どうやってつくったの？」 「イチヨウの葉っぱっているんなことできるんだね。」</p>	<p>○ 子どもたちが自分たちで必要なものを話し合い、準備することも楽しめるようにしてもよいのではないかな？</p> <p>○ B児の工夫をお客の年中児たちにも伝え、みんなでB児の工夫を共有し、イチヨウの面白さを感じられるような言葉掛けをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「Bちゃん、こんなのをつくったんだって」 「イチヨウの葉っぱっているんなことできるんだね。」</p>

2学期に実施した研究保育・保育研究から、年少、年中の子どもたちが深まる秋の中でかくれんぼを楽しむ姿が見られた。そこでの子どもたちの姿と保育者の援助の在り方について大切にしたいことを次のようにまとめることができた。

～かくれんぼをするときの子どもたちの姿と保育者の援助について（12月の事例から）～



以上のように、年少児、年中児では、保育者は、子どもたちが主体的に遊ぶ姿を大切にしながら、子どもたちが自ら遊びを展開できるように導いていることが分かる。このような保育者の援助のもと遊びを楽しんだ子どもたちは、年長児になると、自分たちで遊ぶ仲間を見付け、これまでの経験を生かしてルールを共通理解しながら遊びを始めるようになる。

同じ遊びをするにしても、保育者は子どもたちの姿に合わせて、それぞれの発達の過程に合わせた援助を大切にしていきたい。